

# 2019年度(第44回)「<sup>かすのう</sup>児童健全育成賞(数納賞)」 公募要領

主催 一般財団法人児童健全育成推進財団

後援 厚生労働省

「児童健全育成賞(数納賞)」は、児童健全育成に関する優れた実践報告に対し褒賞するものです。この賞は、朝日生命厚生事業団が故数納清氏(当時朝日生命会長)の寄付金を基金に「数納賞」として制定し昭和51年より実施され、平成16年度(第29回数納賞)から、児童健全育成推進財団が主催しています。平成23年度に「児童健全育成賞(数納賞)」と改称いたしました。

1. 審査基準
  - (1) 活動の先駆性、普及性、社会的効果性
  - (2) 地域(地域住民、各施設、行政など)との連携状況
  - (3) 自己の活動への客観的検証
  - (4) 文章構成における論理性
  - (5) 実践記録としての価値
  
2. 応募について
  - (1) 対象 児童の健全育成に関し、児童福祉施設(児童館、児童養護施設等)、地域組織(母親クラブ、子ども会等)、家庭相談員、里親等の活動の具体的実践報告。
  - (2) 投稿書式 **❖ A4判縦長用紙・横書、枚数厳守**
    - ①目次 — 実践報告には目次をつけてください。目次は、文章の区切り(節)ごとに内容を示すタイトルをお書きください。
    - ②手書き — 400字詰原稿用紙×30枚(黒のペン使用)
    - ③ワープロ — 32字×25行×15枚
      - ❖ 題名、目次の一覧、氏名(ふりがな)、住所、年齢、職業(所属先名)、電話番号、簡単なプロフィール(200字程度)を明記した表紙を添付する。※原稿には含みません。
  - (3) 締切 **2019年11月30日(土)**
  - (4) 応募条件
    - ① 応募者の実践に基づいた報告であること。
    - ② 業務に関わる実践報告は、所属長および関係者の了解を得ること。

③個人情報やプライバシー等の倫理面の取り扱いに配慮していること。

④引用は明確に区分し、出典と引用箇所を明記すること。

⑤再応募する場合は、その間の普及性や効果等を明記すること。

⑥児童健全育成活動が一定期間（2年以上）実践されていること。

⑦既に他団体の企画に応募した、いわゆる重複論文または、同じ実践内容についての報告は不可。

(5) その他

①応募原稿はお返しいたしません。

②実践報告の内容について確認を行う場合があります。

③原稿は電子媒体（メール、CD等）による提出も可。

(6) 提出先

（一財）児童健全育成推進財団 児童健全育成賞（数納賞）係

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷2-12-15 日本薬学会ビル7階

E-mail kazunou@jidoukan.or.jp

【お問い合わせ】03-3486-5141

3. 授 賞 原則として、児童健全育成賞（数納賞）1編、同佳作4編。ただし、該当するものがなく見合わせる場合があります。  
入賞者には賞状と賞金（児童健全育成賞（数納賞）30万円、同佳作各5万円）を贈ります。なお、佳作に準ずると評価された報告には、選外ながら特に「奨励賞」を設け、賞状と賞金（3万円）を贈ります。

4. 入賞発表 2020年3月  
（報告内容が実践活動の事実と著しく相違していることが判明した場合は、発表後であっても入賞を取り消すことがあります。）

5. 発 表 入賞した実践報告は日本児童学会誌『児童研究』に掲載いたします。

6. 審 査 運営委員による一次審査を経て、審査委員による本審査を行います。

7. 審査委員・運営委員（敬称略）

審査委員

依田 秀任 厚生労働省 子ども家庭局 子育て支援課 児童環境づくり専門官

大竹 智 立正大学 副学長



橋本 英洋 日本医科大学 元客員教授  
廣瀬 英子 上智大学 総合人間科学部心理学科 教授  
望月 重信 明治学院大学 名誉教授  
鈴木 一光 一般財団法人児童健全育成推進財団 理事長  
他1名調整中

#### 運営委員

荒川志津代 名古屋女子大学 教授・文学部長  
植木 信一 新潟県立大学 人間生活学部子ども学科 教授  
加賀谷崇文 秋草学園短期大学 地域保育学科 教授  
川鍋 慎一 国立障害者リハビリテーションセンター自立支援局秩父学園 園長  
中川 一良 京都市北白川児童館 館長、聖和短期大学 非常勤講師  
興津 哲哉 一般財団法人児童健全育成推進財団 業務執行理事  
野中 賢治 一般財団法人児童健全育成推進財団 企画調査室長

---

### 平成30年度（第43回）入賞者実践報告（敬称略）

---

#### 児童健全育成賞(数納賞)

(該当なし)

#### 児童健全育成賞(数納賞)佳作

- 大型児童館における遊びのプログラムの開発と普及  
香川県高松市 さぬきこどもの国 企画・シアターグループリーダー 加地 裕子
- 誰もが主役になれる児童館をめざして  
—マイスクール児童館のとりくみ—  
宮城県仙台市 仙台市立町マイスクール児童館 館長 小泉 節子
- お母さんの『こうだったらいいのにな』を叶える  
—特定非営利活動法人i i t o k oの活動—  
群馬県高崎市 特定非営利活動法人i i t o k o スタッフ 嘉部 真澄

#### 児童健全育成賞(数納賞)奨励賞

- 障害を持つ子のためのヘアカット「スマイルカット」  
京都府京都市 特定非営利活動法人そらいろプロジェクト京都 理事長 赤松 隆滋

過去の児童健全育成賞（数納賞）受賞作品一覧（該当作品がない年度は省略）

年度	作品名	受賞者
昭和57年度	子どもの成長を支える地域の親どうしの関係	東京都杉並区 宮前北児童館 佐藤圭子
昭和58年度	子どもたちの放課後生活は地域の大人の連帯によって豊かになるー 第2回「あさがやこどもまつり」の実施をとおしてー	東京都杉並区 阿佐ヶ谷児童館 菅原忠雄、鈴木圭子、宮川恵
昭和60年度	異質の統合を目指して	東京都世田谷区 岡本泉
昭和62年度	高校生とボランティア活動	埼玉県熊谷市 高校教師 森正子
昭和63年度	ともに生きる まちづくりの一翼を担って ー高円寺中央児童館3年間のあゆみー	東京都杉並区 児童厚生員 鈴木雄司、青木千穂、飯田典子
平成元年度	児童館における地域作りの可能性を探って	東京都文京区 児童厚生員 入谷悦子、久住智治
平成2年度	石狩町における児童館を中心とした地方文化の輪	北海道石狩町 児童厚生員 鈴木トミエ
平成3年度	子ども・地域・組織に機能する児童館活動 ー児童福祉ネットワークのクリークにー	東京都板橋区 児童厚生員 西郷泰之
平成4年度	家庭養育機能を高める「母と子のサロン活動」	福岡県久留米市 児童センター館長 東宏
平成5年度	家庭教育脆弱化への援助 地域で果たすべき児童館の役割	東京都足立区 地方公務員福祉指導 大谷暢子
平成9年度	お母さんの・キメラ家族づくり	福岡県福岡市 里親 小糸一子
平成10年度	ミュージカル7年間のあゆみ	徳島県徳島市 徳島児童ホーム 太田敬志
平成12年度	中・高校生の新しい居場所をめざして ー杉並区児童青少年センターの中・高校生にせまる実践と展望ー	東京都杉並区 杉並区児童青少年センター事業係 添田京子、鈴木なおみ、佐藤裕、上田正昭
平成18年度	児童館からの発信 難病の子と共に育った児童館の歩み魚鱗癬を知 って下さい	千葉県船橋市 三咲児童ホーム 児童厚生員 大久保仁美
平成20年度	こころの手をつなごう！ ～中標津町から不幸な子どもはつくりたい・つくりせない～	北海道中標津町 中標津町子育て支援室係長 高松絵里子
	小規模多機能児童館の可能性 ～独自事業から公的事業への展開ー高学年障害児の居場所づくりの 実践報告～	京都府京都市 西陣児童館 児童厚生員 小西秀和
平成26年度	児童館における子どもの支援	岐阜県岐阜市 社会福祉法人岐阜市社会福祉事 業団 児童館・児童センター統括施設長 川上宏二
平成27年度	中学生への学習支援事業がつなげる人材育成	北海道札幌市 公益財団法人さっぽろ青少 年女性活動協会 育成課 運営係長 古野由美子
平成29年度	京都市明德児童館「認知症理解への取組」 ー高齢者福祉との協働・支え合う地域へー	京都府京都市 京都市明德児童館 館長 西尾久美
	事務所を子どもたちに開放した実践事例 ーお茶の間のような事務所から見えてきたものー	東京都三鷹市 三鷹市西多世代交流センター 児童厚生員 宮村真紀

※受賞者の肩書きは受賞当時のものです。/ 平成20年度、29年度は各年度において、2編ともに受賞の水準に達しており、審査の結果、甲乙つけがたく審査委員一致で2編が選定されました。

※過去の入賞実践報告の一部を児童健全育成推進財団ホームページからご覧いただくことができます。